露古の詩３篇

露古

星

夜明けに語る
病んだ人のように

便り

ぽつり、
雨が来る、
来る
三本足の猫と暮らしています
午後に来た手紙

沈黙

柔らかな桃色の波頭が崩れるたびに人々は感嘆の息を漏らした
子どもがひとり砂浜を駈け出して沖をゆく船に手を振った

ああ…
誰かが私を憐れんでいる